2024 年 8 月
日本製紙株式会社 経営企画部

2024 年度第 1 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1： 今回発表した生産体制再編成によって、生産能力は何％減少するのか。また、今年度中にさらなる生産体制再編成を発表する計画はあるのか。

A1： 中期経営計画 2025 が始まる前の 2020 年度と比較すると、グラフィック用紙の生産能力はおよそ 30％の削減になる。これまでに 20％ほど削減してきたので、今回の生産体制再編成では 10％ほどの削減になる。また、2028 年度をめどにグラフィック用紙の生産拠点を 3 カ所程度に集約するとしているが、それに向けて現段階でやるべきことを今回発表した。今後も段階的に生産体制再編成を進めていく。

Q2： 八代工場において輸出を中心とした家庭紙事業を 2027 年度に開始するとのことだが、必要な投資はどの程度なのか、などもう少し具体的に教えてほしい。

A2： 現時点では、最終調整している部分もあるので、詳細は差し控えたい。

Q3： 今回、通期計画を据え置いたが、上期の業績はどのように見ているのか。

A3： 5 月の決算・経営説明会でも話した通り、今年度は日本ダイナウェーブパッケージング（NDP 社）の工事休転が通常より長い。そのため、元々考えていた通り、第 2 四半期は固定費の負担が重くなる。そういった意味では、第 1 四半期と第 2 四半期で比べると、第 2 四半期の方がきつくなる。

Q4： Opal 社の第 1 四半期の営業利益増減要因について教えてほしい。

A4： 第 1 四半期だけを比べると対前年で 10 億円ほど悪化しているが、これは原紙の輸出市況の影響が大きい。前年の第 1 四半期は、市況がまだ良かったので、その影響が出ている。ただ、自助努力の部分も含めて、おおむね計画通り進んでいる。

Q5： アジアの市況や景況感を考えると、輸出の増加はあまり考えにくい。その中で、輸出数量が増えている理由を教えてほしい。

A5： 紙の需要が振るわない中で、戦略的な部分も含めて輸出は積極的にやっている。安売りをするのではなく、できる限り相手を定めて、しっかりとした形で売っていくことを優先して取り組んでいる。

Q6： Opal 社の立て直しについて教えてほしい。今期はメアリーベール工場で 90 ミリオン豪ドルの赤字、パッケージ事業が 10 ミリオン豪ドルの黒字の計画だったと思うが、1Q の進捗をどのように評価しているのか。

A6： 第 1 四半期は、ほぼ業績見通しの通り。第 2 四半期についても、固定費の削減や生産性の見直しは予定通り進めている。多少の変動はあると思うが、概ね業績見通しに沿って進捗している。

Q7： 原価改善について教えてほしい。円高によって輸出数量が減ってしまうリスクや、国内の段原紙も需要がなかなか戻ってこないことを踏まえると、数量の下振れによって原価改善の発現が計画よりも下回ってしまう可能性はないのか。

A7： 原価改善は、操業率の影響は受けるが、その中でもいろいろな工夫をしている。現場からアイデアが次々に出てきている。数量減のリスクはあるが、原価改善はしっかり出していきたい。

Q8： 今後の値上げの可能性について教えてほしい。

A8： マーケットの状況を見ながら検討している。今後も人件費や物流費のコストアップは想定されるので、自助努力で吸収できない部分はどこかでお願いせざるを得ないと思っている。

以上